アクションプラン－１－の達成状況と方策

強調週間を設け、時と場に応じて気持ちのよい挨拶『あいてを見て　いつでも　さきに（自分から）つたえる（場に応じた声の大きさで)』を１日５回以上できる児童の割合が全体の 80％以上になることを目指す。

＜達成状況＞

○「できるようになったかな」チェックの結果より

・「自分から進んで気持ちのよい挨拶を５回以上した」･･･86％

・児童玄関でのあいさつ運動（月･水･金）では、自分から挨拶ができる児童はまだまだ少ない。(あいさつ運動の実態より)

・児童同士で挨拶をするという意識は、低い傾向にある。

○「地域指導員の皆様へ」の結果より

・「自分から進んで気持ちのよい挨拶をしていた」･･･４段階中平均 3.9

＜方策＞

・「○○さん、おはよう」や「(顔を合わせて）おはよう」というように、誰に対して挨拶をしているのか意識付けさせる。

・児童玄関でのあいさつ運動→校内巡回型あいさつ運動

・村椿更生保護女性部による「朝のさわやかあいさつ運動」(４、９月の毎　　週水曜日７：45～８：00）に向けて、事前に全校へ知らせ、意識付けた。

・県実施の「令和６年度さわやか運動（10/15～10/18)」に合わせて、「さわやかあいさつ運動」を行う。合わせて、「地区別のあいさつ運動」も行う。

アクションプラン－２－の達成状況と方策

強調週間を設け、「先生や友達の話を、相手の方を見て、最後までよく聞くことができる」児童の割合と、「学習中に、自分の考えを表すこと（発言、ハンドサイン等）ができる」児童の割合が共に 80％以上になることを目指す。

＜達成状況＞

○「できるようになったかな」チェックの結果より

・「先生や友達の話を、相手の方を見て、最後までよく聞くことができた」･･･91％

・「学習中に、自分の考えを表すこと（発言、ハンドサインなど）ができた」･･･82％

・「聞く」「話す（表す)」ともに目標の 80％を達成しているが、「聞く」と「話す（表す)」に 10％程度の差が見られる。

・「話す（表す)」のうち、ハンドサイン等はできていても、発言や発表になると挙手や発言する児童が限られており、偏りが見られる学年が多かった。

○「地域指導員の皆様へ」の結果より

・「話す人の方を見て話を聞いていた」・・・４段階中平均 3.7

・「進んで話をしようとしていた」・・・４段階中平均 3.6

・自由記述

「３年生でもしっかりと自分の疑問をもった児童がいて、楽しく質疑応答させてもらいました」

「説明中の質問等に対して大きく回答・リアクションしていたのが好印象でした」

「机が狭く、物を落とすタイミングで集中が切れるときもありましたが、静かに話を聞いていたと思います」

「恥ずかしかったのかなと思います。男子児童が積極的に発言されていました」

＜方策＞

・ハンドサインは、どの学年においてもさらなる浸透を図る。

・全体での発表ばかりではなく、グループでの話合いや発言の場を設け、まずは安心して自分の考えを表すことができるようにする。

・朝や学習の始めに「聞く」「話す･表す」の具体的な目当てをもたせ、学習の終わりや帰りに振り返りを行う。

アクションプランー３ーの達成状況と方策

強調週間を設け、給食後に３分間しっかりと歯みがきを行うことができる児童の割合が全体の 90%以上になることを目指す。

＜達成状況＞

○「できるようになったかな」チェックの結果より

・１学期は「給食後、自分の席にすわって、３分間ていねいに歯をみがいた」・・・90%。

・目標値に達しているが、児童による自己申告なので、実際に歯みがきをしているかどうか怪しい児童もいる。

・給食後の歯みがきは各教室で行うため、歯みがきの見届けが難しい現状がある。

・今年度の検診結果で、むし歯があった児童の割合は全体の約 30.4%だった。（昨年度は 30.2%）むし歯の罹患率は１年生が約 61.5%と最も高く、２年生は 9.1%と最も低かった。また、中学年も高学年に比べてむし歯の罹患率が高かった。

＜方策＞

・校内に学校で行う歯みがきの目当てを掲示し、むし歯予防や歯みがきの意欲を保持できるように呼びかけていく。

・教室のタイマーに加え、ランチルームで以前使用していた砂時計等も使って、３

分間を意識して歯みがきができるようにする。
・歯みがきの目当てカード（個人）を東階段の踊り場に掲示してある。折に触れ、目当てが守れているかどうか（覚えているかどうか）確認し、意識付けを図る。